

開催講座案内 〈シリーズ戦後80年〉いまこそ、考えたい戦争と平和

語り継ぐ戦争

～被爆者からあなたに、戦後80年をこえて～

- 第1回 1月25日(日) 被爆者の「体験」に触れる
——記録から考える
- 第2回 2月15日(日) 日本被団協が求めてきたもの
——運動の足跡から考える
- 第3回 3月1日(日) 戦争をしない・させないために
——いま〈継承〉を考える

講師 栗原 淑江・中尾 詩織
(NPO 法人ノーモア

・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会)

コーディネーター 根本 雅也 (一橋大学)

とき すべて昼2時～4時

ところ 公民館 3階講座室

定員 30名(申込先着順)

申込先 1月8日(木)朝9時～

電話または申込フォームより

費用 テキスト代実費 680円

(岩波ブックレット『被爆者からあなたに—いま伝えたいこと』)

※公民館で事前にご購入いただけます。



栗原淑江さん



中尾詩織さん



第 791 号

2026年1月5日

(令和8年)

「くにたち公民館だより」

デジタルブック ▶



発行 迎春

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

2024年、日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)がノーベル平和賞を受賞しました。日本被団協が結成されたのは1956年。ビキニ環礁水爆実験による第五福竜丸の被爆を受け、原水爆禁止運動が全国に拡大したことがきっかけでした。ふたたび被爆者をつくらないことを願い、被爆者自ら傷ついた心と身体をさらけ出し、世界に向けて声を上げたのです。

太平洋戦争末期に投下された原爆は、一瞬にして広島と長崎を死の街に変えました。「人間として死ぬことも、人間らしく生きることも許さ」れない(『原爆被害者の基本要請』、想像を絶する経験。戦後80年を迎え被爆者の声を直接



ノーベル平和賞授賞式日本被団協代表団の記念写真。

亡き被爆者の顔写真とともに(2024年12月10日)。※提供：日本被団協



日本被団協結成大会 (1956年8月10日)

※提供：日本被団協

聞くことが難しくなりつつあるいま、被爆者たちの苦しみと、そこから生まれた「ノーモア・ヒバクシャ」の願いを、わたしたちはどう受け止め、未来へつないでいくことができるのでしょうか。

今回は、長年被爆者調査やその運動に関わり、いま、残された史料の保存・活用に携わる栗原さん、継承に向き合ってきた被爆三世の中尾さん、国立市伝承者活動のアドバイザーでもある根本さん、他に継承する会スタッフとして活動する伝承者もお招きし、連続講座を開催します。被爆者の手記をもとに体験に触れ、日本被団協のあゆみを知る中で、私たちができることを考えるヒントを得る機会としたいと思います。

〈国立市公民館70周年記念講演(2025年10月12日(日)開催)〉

やまぎわじゅいち

山極壽一さん 「争いばかりの人間たちへ ゴリラの国から —『ともに生きる』ってどんなこと?」講演要旨

公民館70周年事業として開催され、200名以上の参加者があった山極壽一さんの記念講演の一部をご紹介します。ワクワクするような内容でした。より詳細な講演記録や白熱した質疑などのやりとりは、3月発行予定の70周年記念誌に収録予定です。ぜひ併せてお読みください。



【山極壽一さんプロフィール】

国立市出身の霊長類学・人類学者。2020年まで第26代 京都大学総長。理学博士。人類進化論専攻。2021年より総合地球環境学研究所の所長を務める。近著に『争いばかりの人間たちへ ゴリラの国から』（毎日新聞出版、2024年）、『老いの思考法』（文藝春秋、2025年）など多数。

■人新世における危機と 近代思想への疑問

この度は、国立市公民館開館70周年記念事業にお招きいただき、ありがとうございます。本日は『『ともに生きる』ってどんなこと?』という副題がついています。私が、私は長年のゴリラ研究を踏まえた霊長類学や人類史的観点から、争いや暴力が絶えない人間社会の諸問題の根源について、考えてみたいと思います。

まず、今、私たちは「人新世（アントロポセン）」の時代にいると言われています。この1000年間で人類の人口は4倍の83億人に達し、特に1950年代以降の「大加速（グレート・アクセラレーション）」期に、GDPや水の消費など、あらゆる指標が急速に同期して伸びているんです。その結果、人と家畜を養うため

の土地が地球の歴史の4割を超え、人間と家畜が地球上の生物資源の96%に達した。そして、「惑星限界（プラネタリー・バウンダリー）」の指標のうち、6つ（新規化学物質、気候変動、生態系の損失、土地利用の変化、グローバルな淡水利用、窒素とリンの循環）が限界値を超過している。このままいくと、地球が人間の住める惑星ではなくなっていくという予想が成り立つわけです。

おかしいんです。近代科学、資本主義、新自由主義によるグローバル化は、個人の欲望を無限に拡大して、これで僕らは幸福になると思ったんだけど、このままだや地球に人間が住めなくなります。何かおかしい。それで、僕は考えてみたんです。近代をつくった17世紀の思想家たち、これが間違っていたんじゃないかと思うんです。

たとえば、フランシス・ベーコンは、自然は放っておいたら無価値だから人間が技術で開発しなければ価値がないと言った。そこから産業革命が始まり、イギリスは最初に森林を全部伐採しました。

トマス・ホッブズは、人間の自然状態は闘争状態である。だから、大きな権力に権利を移譲して、秩序をもたらさなければならぬと説いた。さらに、進化論がホッブズの闘争状態という考えを自然世界に広げ、人間も資源をめぐる闘争するという「本能」に当てはめて、大きな力による平定を正当化してきた。今の政治家の一部はこれを利用してゐるわけでしょう。でも競合状態になったからといって戦争するとは限らない。お互いに協力し合ったり、共存したりするために知恵を働かせなくちゃいけない。

最も影響を与えたのはルネ・デカルトです。デカルトは「我思う、ゆえに我あり」と言っただけ、ほんまやろかと。デカルトが精神と身体を分けたことで、物理の法則を知れば精神が世界をコントロールできるという発想につながった。「身体も意識も持たない人工知能（AI）」は、まさにデカルトの発想そのものじゃないですか。

■「狩猟仮説」の誤りと 「ゴリラの真実」

バラク・オバマ大統領も、2009年のノーベル平和賞の受賞演説で「戦争は、最初の人間が現れたときからあった」「干ばつや感染症と同じぐらい単純な事実だった」とおっしゃっている。これは、第二次世界大戦後に現れた「狩猟仮説」という間違った仮説を踏襲しているんです。狩猟と分業が人類を進化させ、狩猟具を人間に向けて戦いが始まったという説ですね。

しかし、人類の進化、700万年間の中で、最古の槍が見つかるのは50万年前ですし、それは投げの槍ではありませんでした。長い狩猟採集時代に、集団間で戦ったという記録はほとんどありません。なおかつ、現在の狩猟採集民でも、武器を持って戦ったという報告はほとんど出ていないんですよ。人類は長い進化の間、ほとんど集団間で暴力を発揮してこなかったんです。だから「狩猟仮説」というのは間違っていた。それにみんな気づいていながら、いまだにその仮説を捨てていない。

その暴力的な人間観の象徴とされたのが、19世紀に発見されたゴリラなんです。欧米人にとって



メイン会場である地下ホールには、定員いっぱいの参加者が集いました。

■共感力の進化：共食、一足歩行、共同保育

私の仮説を言うと、人類が自然

熱帯雨林は「闇の世界」であり、その奥に住むゴリラの「ドラミング」が宣戦布告だと誤解され、暴力的で悪魔的なイメージが定着しました。

しかし、研究者たちが群れに入

災害や肉食動物への脅威に立ち向かうために高めてきた「共感」という能力が、ある理由で暴力に転化したと思っています。その理由とは、「定住と所有」です。

狩猟採集民は、定住せず移動生活をしてきた。そして、所有をな

その延長線上に我々はいま

人類の祖先が、熱帯雨林を離れて

一つは「共食」です。猿が優劣

食物を、安全な場所にいる仲間の

ために運び、一緒に調理して食べる「共食」を始めた。これにより食物が社会的な道具となり、共感につながるわけです。

二つめは「直立二足歩行と身体

喉頭が下がり、多様な声を出せる

三つめが「共同保育」です。人

か、脳の成長（生後1年間で2

身体は、なぜ共感力を高めたか

その結果、人類は、「家族（奉

仕の組織）」と「共同体（互酬性

る「二重構造の社会」を両立させることが可能になったんです。これは、共感力を高め、将来の見返りを期待して一時的に自己犠牲を払うという互酬性を、時間経過を引き延ばして考えられるようになったからだと思います。

■集団の限界：「150人の共同体」

脳が大きくなり始めたのは20

脳が大きさ（新皮質比率）と霊長

現代人の脳容量（1400cc）

採集民が暮らしている集団規模で

頼でできる仲間が、「喜怒哀楽を共

ピタル（社会関係資本）なんです。



より多くの方にご参加頂けるよう、ロビーと講座室で生中継を行いました。（写真はロビー）

■AIの危険性と文化の再構築

今、我々が直面しているのは、

通信情報科学の問題です。現代社

出にして分析します。AIは過

（次ページに続きます）



います。しかし、情報産業のプラットフォームは個人の情報を吸い上げ、文化の均一化を招き、地域特有の質疑応答も活発に交わされました。

間が持つ「何もないところから発想する」という野心的な部分がどんどん薄れていくと思うんです。既に起こっている安心な選択肢を重視してしまう可能性がある。みんなA Iに聞いて、一斉に同じ方向に誘導されかねない。

A Iは身体も意識も持たない論理や倫理を情報だけで作るんです。我々がそれに依存すると、戦争はいいことだとか、暴力を振るうのは仕方がないという結果になるかもしれない。とても危ないことですよ。

私は、SDGsに「文化」がないことが不満なんです。文化は身体、心の中に埋まり込んだ価値観であり、地域と切っても切れない縁があります。「文化的多様性」は生物的多様性と同様に、交流、革新、創造の源として人類に必要なものであると2001年のユネスコ総会でも言われています。しか

A Iは身体も意識も持たない論理や倫理を情報だけで作るんです。我々がそれに依存すると、戦争はいいこととか、暴力を振るうのは仕方がないという結果になるかもしれない。とても危ないことですよね。

の言語、自然、産業、伝統的な縁などを喪失させている。

未来をつくるためには、バンド・ミックで制限された「移動、集まる、対話する」という3つの自由に基づいた、新しい「社交」の文化を再構築しなければならない。社交に必要なのは、言葉じゃなくて「リズム」、つまり音楽的・身体的なコミュニケーションですね

地域が自活できる、コンヴィヴイアル（自立共生）な力を蓄えていくことが求められているなか、社交の基本である「150人の共同体」を再構築する絶好のチャンスです。所有物を減らし、分かち合い（シェアリングやコモンズ）の社会へ移行していくべきです。

私たちの社会は、物が人と人とを分断する社会になっています。所有することによって、人の価値が所有物の価値に換言されちゃっているわけですよ。でも、長い時間

いるわけですよ。でも、長い時間をつくってやってきたのは、物を分かち合うことで人と人とがつながる社会でした。

こうやって一堂に会することができるのは人間の特性なんです。ちようど150人というダンバー数、ぜびこういうまとまりで、皆さん、信頼できる仲間をつくること、これが今後、未来に生きると思います。

くにたち公民館 70 周年

公民館とわたし ⑥

LABO ☆くはスタに通い始めたのが、私と公民館の出会いです。勉強だけでなく、同年代の中高生や支援者である大学生たちとワイワイ交流できるこの場所は、私に安らぎと楽しみを与えてくれます。まさに、私の青春の1ページであり、LABO なくして今の私はありません。進学後は、支援者として学習者や公民館を支えていき、恩返ししたいです。



野崎歩 大学受験に奮闘中の純国立市民です。

消防団として「公民館 de 防災」に初回から参加して
て第六分団は水消火器による初期消火指導を行っていま
す。その他にも様々な団体の方が参加されていて震災講義
や、AED 体験、防災グッズ展示、防災食など防災につい
て楽しく、美味しく学べる防災訓練で
す。公民館は市民の皆さんの集いの
場、憩いの場、学びの場そして、いざ
という時、防災の拠点として心強い味
方です。



細田良太 国立市消防団第六分団 分団長

多くの方のおかげで、連載コラム「公民館とわたし」の記事を集めることができました。本コラムは2026年3月5日号まで掲載予定です。

公民館との出会いは、退職後何か新しい事をしたいと思っていた時に目にした「公民館だより」の朗読講座の受講がきっかけでした。講座終了後、朗読サークル（こぎつねの会）に参加し、仲間たちとの練習や文化祭の参加などの交流を通して、楽しく有意義な時間を過ごしています。



田中雅子 読書が大好きです♡

子どもの幼稚園へ行く通り道に公民館があり、よく利用するようになりました。季節の絵本を借りて家で楽しんだり、下の子には読み聞かせをしたりしています。公民館のおかげで、絵本を通して親子でゆったりとコミュニケーションを深める時間を持つことができました。



こはる 2人の子を育てています。

公民館音楽室の利用を始めて数年です。現役時代は朝晩公民館前を通っていましたが、公民館って何をする所なんだろうと思っていました。仕事から離れ、さて、と思った時に学生時代にJAZZに傾倒した事から、そうだJAZZを歌おうと思い、以来今は友人達と音楽室を利用しています。ピアノが有り大きな声が出せる事でとても楽しく過ごしています。



喜三郎 Jam Groovy

〈国立市公民館70周年記念イベント実施報告〉2025年11月2日(日)開催

わたし(たち)にとっての「くにたち公民館」 — 「ともに学ぶ」ってどんなこと？

開館70周年を迎えたくにたち公民館で記念イベントを開催しました。当日は100名を超える方々に参加していただきました。

1. 記念式典

館長からの趣旨説明、市長・教育長あいさつの後、市民文化祭参加団体のコーラスグループ「ハートヴォイス」による「この道が好き」(作詞：北島多佳子、作曲：遠藤信男)の合唱が披露されました。



濱崎市長によるあいさつ



ハートヴォイスによる合唱

2. 公民館で活動する市民のリレートーク

関わっている期間・活動も様々な5名の登壇者に、くにたち公民館との出会い、活動への思いをお話いただきました。それぞれに語っていただいた「ともに学ぶ」体験を通じて、くにたち公民館で行われている多様な学びの形を参加者と共有しました。



◀写真左から

- ・北島多佳子
(障害をこえてともに自立する会)
- ・杉原広子 (近代思想研究会)
- ・三谷桂子 (KUNIFA 日本語サポート)
- ・森川健治 (身体表現講座参加者)
- ・山上眞依
(ゼロエミッションを実現する会・国立)

3. 記念講演「言葉が自由に行き交う心地良さ」 講演：長谷川 宏(哲学者)



講師のおだやかな語り口に
ひきこまれました。

長年にわたるくにたち公民館での哲学講座や読書会、自宅で開く学習塾などの活動を振り返りながら、「長く続けることで生まれる信頼関係、それによって自由に言葉が行き交い、互に通ずることの嬉しさ」についてお話いただきました。くにたち公民館で長く続く「開かれた学び」、そしてまさしく今回の70周年イベントのテーマである「ともに学ぶ」ということについて、改めて考える講演となりました。

参加者アンケートから

- ・周年事業を公民館・市民と一緒に企画・運営しているところは、なかなか見当たらない。「ともに学ぶ」というテーマが利用団体や講師の立場から、ちゃんと語られ、納得できた。公民館職員が「ともに学ぶ」ことをどう考えているのかが聞けなかったのが、これからの展望を語ってほしかったです。
- ・合唱、リレートーク、記念講演、どれも良かったです。やはり「対面」「対話」がいいですね。
- ・「この道が好き」の合唱から、リレートーク・講演まで、公民館職員さんと市民の有志の方々と開催された、「70周年式典」という堅苦しさのない手作り感満載のくにたち公民館らしい温かい会でした。

下記の特設ページに、70周年事業の取り組みをまとめています。



▲70周年特設ページ

〈くにたちブッククラブ〉
—自分と『似ているもの』／『似ていないもの』—

三島由紀夫『金閣寺』

(新潮文庫)

講師 大木 志門 (東海大学・日本近代文学)

5月から、8回にわたり様々な日本の文学作品を味わう「くにたちブッククラブ」を実施しています。

今回は、三島由紀夫の代表作ともいえる『金閣寺』を取り上げます。講座では、参加者の感想を全体で共有し、講師から作品の解説をしていただきます。

今年度はこれで最終回となりますが、今回が初めてという方のご参加も大歓迎です。

と き 1月8日(木) 夜7時半～9時半

ところ 公民館 3階講座室

定 員 30名(申込先着順)

※参加者多数の場合、市内在住・在学在勤の方を優先することがあります。

申込先 電話または申込フォームより

※詳しくはホームページをご確認ください。



〈教育講座〉

思春期男子との関わり方

～思春期を理解し、より良い親子関係を築く～

講師 小崎 恭弘 (大阪教育大学)

少し前までは「パパ・ママ大好き」だったのに……。最近いつも不機嫌で不愛想。かける言葉は空回り。思春期の子を持つ保護者が抱える悩みは多岐にわたり、子の変化に戸惑いを感じている方も多いのではないのでしょうか。

講師の小崎さんは、兵庫県西宮市初の男性保育士として12年間子ども達と向き合い、現在は大学で教鞭をとりつつ、「子育て支援」、「保育学」等の講演会で全国を飛び回っているほか、NHK Eテレ『すくすく子育て』等、テレビや新聞、雑誌でも活躍中です。3人の男子のお父さんで、ご自身も男3兄弟。男子とどっぷり関わってきた経験から、「男子のプロ」という異名を持っています。

講座では、思春期男子ならではの特徴や難しさを解明し、「扱いにくい」がラクになる関わり方をお話いただきます。今子育てで抱えているモヤモヤや不安を解きほぐし、親子の関係性がより良好になるような機会にしたいと思います。思春期の子を持つ保護者の方はもちろん、思春期について知っておきたい方もぜひご参加ください。

と き 2月15日(日) 昼1時～4時

ところ 公民館 地下ホール

定 員 50名(申込先着順)

申込先 1月15日(木) 朝9時～

電話または申込フォームより



〈親子で遊ぼう・考えよう〉

ピタゴラ装置コースを作って転がそう

講師 山田 修平

(NPO 法人東京学芸大こども未来研究所)

ピタゴラ装置のコースからボールまで親子で製作し、ゴールを目指しましょう！オリジナルコースを考えたり、工夫することを親子で楽しみましょう！

と き 2月8日(日) 朝10時～12時

ところ 公民館 地下ホール

持ち物 飲み物、汚れてもいい服装

対象・定員 子ども(5歳から小学生まで)と保護者

8組(家族単位です)

※初めての方優先。

※応募者多数の場合抽選。

申込先 1月16日(金) 夜9時までに、

申込フォームよりお申し込みください。



国立市公民館では、親子で楽しめる〈親子で遊ぼう・考えよう〉という講座を定期的に開催しています。公民館だよりや公民館のホームページでお知らせしていますので、ご興味のある方はぜひお申し込みください！

クラシックギター会員募集
 くにたちギタークラシカがビギナーを募集します。ベテラン会員が手ほどきいたします。主にクラシック音楽を楽しみます。入会金・月会費不要です。
 日時 第2・4金曜日朝10時～12時
 場所 東地域防災センターなど
 連絡先 こみや090(4027) 6974



ひろば

(8ページにもあります)

「医の倫理と戦争」上映会
 加害者としての戦争を語る映画上映会。731部隊の真実を追いつながら、現在の医療現場取材したドキュメンタリー(77分)。上映後、感想交流会を行う予定。
 日時 1月24日(土) 朝10時
 場所 公民館 地下ホール
 連絡先 龍野090(469) 1094

朗読劇はじめての体験会 無料
 優しく寄り添い力を引き出す山崎巖先生(数々の大会 優勝者)と一緒に声で演じる朗読劇を気軽に楽しませんか? 申込み不要。初心者大歓迎。サークルひばり。
 日時 1月30日(金) 昼3時～4時
 場所 公民館 講座室
 連絡先 中村070(2623) 1643

合同いけ花の会 メイト募集
 あなたも日本のいけばなを始めませんか。体験者を募ります。2月は池坊を4回開催します。各流派が集まった会です。花代3千円。
 日時 2月毎週水 夜6時
 場所 公民館(部屋未定)
 連絡先 石原080(4819) 1302

公民館運営審議会報告
 12月9日(火) 第35期第14回定例会を開催。委員12名、館長、職員2名出席。傍聴人3名。
 前回事務録確認 議事録修正あり。
 報告事項
 ○公民館だより編集委員会、社会教育委員の会より報告
 ○東京都公民館連絡協議会より、「第47回全国公民館研究集会東京大会」(11月12日(水) 13日(木) 報告。参加委員の感想を共有。
 「第62回東京都公民館研究大会」(2026年2月7日)について案内。
 ○社会教育学習会「私が「地域」と出会うまで」つながりと学びの発見」市民のリレートーク他

(11月21日(金) 実施 報告。
 ○70周年記念事業の進捗状況報告。ヒアリング班・メッセージ班・記念誌班の活動について。
 ○その他、「公民館だより」のユニバーサルカラーについて館長より報告。「くにたち公民館を守る会」の要望書について確認。
 審議事項
 ○館長諮問「サークル活動をはじめとする公民館利用の拡大に向けた方策について」答申の進め方について委員長より提案、全体審議1月定例会にて、公民館のサークルについて学識の長澤委員よりお話しいただく予定。
 ○「職員人事要望書」について、今後検討していく提案あり。
 次回1月13日(火) 夜7時15分から講座室。傍聴歓迎。(北村)



公民館図書室 休室のお知らせ



1月27日(火)から29日(木)まで蔵書点検のため休室します。

休室期間中は、本の貸出や予約はできません。返却は公民館正面玄関入口横に設置している「本のポスト」へお願いします。

新聞は、上記期間中は朝9時～夕方5時の間、公民館1階ロビーで閲覧できます。

なお、中央図書館や北市民プラザ図書館等は通常どおりご利用いただけます。

その他詳細は、ホームページをご覧ください。

ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

公民館図書室 HP ▶



図書室月報をご存じですか?

公民館図書室では毎月図書室月報を発行しています。「図書室のつどい」や「くにたちブッククラブ」の感想、半年にわたり、お一人がお気に入りの本を紹介する「私の本棚から」などを掲載しています。

1月号では昨年印象に残った本を様々な方が紹介しています。図書室月報は公民館の他、図書館等でも配布しています。ぜひご覧ください。

図書室月報 HP ▶



ー3月分(ロビー4月分)の会場調整会のお知らせー

申込書のポスト投入期間	1月10日(土)～1月29日(木)
予約の重なりのある団体の掲示開始日(国立市 HP にも掲載)	1月31日(土) ▶重なり状況
会場調整会	2月7日(土)朝10時～ 会場：地下ホール

※会場調整会当日は朝10時までに受付してください。

1月10日(土)の会場調整会は市民交流ロビーで行います。

今月の公民館 (1月～2月)

- 1月8日(木)夜 ブッククラブ 三島由紀夫『金閣寺』
 13日(火)夜～ 「日本語教育入門」
 18日(日)朝 図書室のつどい「地名の由来 ～地名の始まりを知り、由来を伝える～」
 18日(日)昼 文化・芸術講座－映画＆お話『Viva Niki タロット・ガーデンへの道』
 25日(日)昼 シネボックス CINEVOX『男はつらいよ 寅次郎あじさいの恋』
 25日(日)昼～ シリーズ〈戦後80年〉「語り継ぐ戦争～被爆者からあなたに、戦後80年をこえて～」
 2月8日(日)朝 親子で遊ぼう・考えよう「ピタゴラ装置コースを作って転がそう」
 15日(日)昼 教育講座「思春期男子との関わり方～思春期を理解し、より良い親子関係を築く～」

講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知らせします。ご不明の点はお問い合わせください。
 公民館 ☎042(572) 5141



▲講座等の案内

三原色で描く

キミ子式絵画展示

講座「シルバー学習室 第46期」の水彩画展を行います。三原色(赤・青・黄色)と白の絵の具で誰でも絵が描ける「キミ子方式」で描いた「もやし」「空」「毛糸の帽子」などを展示します。障害者センター「あさがお」、キミ子方式水彩画サークル「絵筆の会」との合同展です。



※「シルバー学習室」は市内在住の概ね60歳以上の方を対象に、様々なプログラムを学んでいくなかで、新たな自分の発見や、参加者同士の交流・仲間づくりを目指す講座です。(来期の詳細・募集は4月号に掲載します)

期 間 2月3日(火)～8日(日)
 ところ 公民館 1階市民交流ロビー
 連絡先 公民館 ☎042(572) 5141
 障害者センター ☎042(573) 3344

新年こそスポーツ吹矢健康法！
 呼吸機能や口腔機能を鍛えて、ゲーム感覚で、楽しみながら、スポーツ吹矢を始めませんか。強い心肺能力と仲間作りは、人生の大きな財産です。お待ちしています。
 日時 随時(予約をお願いします)
 場所 体育館・公民館・福祉会館・北プラザ
 連絡先 坂井090(249) 9175
 ゴルフを手軽に、バードゴルフ
 ピッチングウェッジ一本で18ホール、国立(第三公園)コースを廻ります。歩くのが足りてない方、ゴルフのレベルアップに、老若男女どなたでも始められます。
 日時 毎週木曜12時、金曜9時
 場所 谷保第三公園グラウンド
 連絡先 坂井090(249) 9175

アクアかもめ水泳会員募集
 運動不足の方、健康な体づくりに水泳を始めてみませんか。初心者・上級者、泳力別にコーチの指導を受けて泳ぎます。男女問いません。体験可。(無料)
 日時 毎週金曜日 朝10時～12時
 場所 FSXアリーナ室内プール
 連絡先 安藤042(527) 2255



ひろば
 (7ページにもあります)

「くにたち映画館」

国立の街にはかつて小さな映画館があった。名画座として賑わい、街の文化を支えていたが、約40年前に閉館。「もう一度、国立の街に映画を」と映画好きが集まり立ち上げたのが「くにたち映画館」だ。

設立当時はコロナ禍。スタッフの中村絵乃さんは、「映画を通して楽しみを分かち合い、少しでも孤立を防ぐことが出来たら」という思いだった」と振り返る。

映画館といっても、固定の建物があるわけではなく、カフェやコミュニティ・スペース等を会場にスタッフが選んだ映画を月に一日、二回上映する。昨年のラインナップも『泥の河』『オッペンハイマー』『マミー』等と多彩だ。

上映後は映画監督等によるトークや参加者同士の感想シェアも行われる。映画を単に観るだけでなく、制作への思いや裏話、他者の思いがけない感想等を聴くことができるのも魅力の一つである。

取材日は、通常の「くにたち映画館」とは別に、まちじゅうが映画館」と題した拡大版の「くにたち映画祭」。2025年は9月から11月まで全12本の企画が開催されていた。終了後、上映までの準備について伺った。スタッフ自身が気になる映画を持ち寄り、配



映画祭の上映を終えてホッと一息

給会社との交渉、会場の確保、チラシづくりやSNSによる広報……。公民館やお店にチラシを置いてもらうようお願いも手作業で一つ一つ進める。
 「忙しくもあるが、思いをかたちにしていく楽しい時間でもある」と、スタッフは話す。
 現在のスタッフは約10名。「いつでもスタッフ募集中です」と笑う。会議では、次回上映する映画を選ぶ話題が尽きない。スマホの画面では味わえない、大きな画面で観る映画。同じ空間で感じる一体感。地域で映画を通してつながり、新しい世界を拓ける。映画好きな方、一緒に活動しませんか？
 日時「くにたち映画館」は月1回
 スタッフ会議は不定期
 場所 国立市内・周辺の店舗等
 連絡先 くにたち映画館
 070(859) 1003
 (文・写真 公民館だより編集委員 幸島 裕子)